

# 平成 22 年度 事業報告

第三セクター 職業訓練法人  
長崎能力開発センター

## <総論>

平成 22 年度は、職業能力開発促進法と障害者自立支援法の組み合わせによる新体系での能力開発訓練を開始した 2 年目の年であった。

「人を育てる能力開発訓練の追求」をテーマに、基本に立ち返り教育訓練のあり方を追求し、指針として以下の 7 項目を掲げた。

1. 先輩から後輩への指導訓練の強化
2. 同期の仲間の中で育つ（パトロールリングシステムの強化徹底）
3. 職員の養成研修
4. 企業、地域生活のニーズに沿った能力開発訓練の実施
  - ①修了生（実態調査）等からのフィードバック
  - ②職業訓練
  - ③生活訓練
  - ④進路指導
5. 経営面の運営管理と安定を図る（訓練果実）
6. 育成会活動の活性化
7. 入校希望者の確保

その結果、雇用情勢の大変厳しい中ではあったが 2 学年生は 20 名中 19 名が就職を果たし、1 学年生は全員 2 学年に進級することができ、園芸科・麺製造科の職業訓練、地域における寄宿舎での生活訓練、進路指導と新たな訓練体系が確実に整備された。また、経営面においては、麺製造科は常に安定的な運営を維持し、園芸科は検証を繰り返す中で徐々に改善がみられている。

しかし、法人設立 25 年目を迎え、過去の礎（様々な方々の思い・願い）を形に残し確実に継承した上に、新しい歴史を重ねていく事が課題と言え、今後も「人を育てる能力開発訓練の追求」をテーマに掲げ邁進していきたい。

## <指針についての報告>

### ○「先輩から後輩への指導訓練の強化」「同期の仲間の中で育つ・パトロールリングシステムの強化徹底」という基本の重視

週番生徒（1 学年を指導できる 2 学年生）への指導を強化し、職員→週番生徒→1 学年生という指導体系を整え、2 学年生と 1 学年生が交流する機会を多くするため週番生徒の長期的導入を実施した。今後は有償サポーター（修了生）が 2 学年生を指導・助言する体系強化が課題である。同期生の日常生活の中では、各役割に応じてリーダーが交代し、リーダーになる経験等の中で育てる「パトロールリングシステム」を強化した。今後は各担当職員の実践研修が課題である。

### ○「修了生実態調査」をフィードバックした能力開発訓練

初回離職理由からみた訓練の焦点を、対人関係、健康管理、反社会的問題行動の改善、職業基礎習慣の徹底指導、自宅生活者へ支援強化と検証し取り組んだ。また、就職先事業所の業種変化に対応した能力開発訓練として、卸売・小売業・飲食店やサービス業への就職を視野に入れ体験実習を多く取り入れた。さらに、修了後の定着支援を担当する関係機関への橋渡しを徹底して行った。

## ○職業訓練、生活訓練、進路指導では、発達障がい者への能力開発訓練、定着支援が課題

就職を決定することができなかった訓練生が象徴するように、近年精神障がいや発達障がいを重複する訓練生が増加している。特技や能力を活かした能力開発訓練や就職のあり方、精神的なストレスへの耐性が弱い訓練生への指導方法が課題となった。職員の専門的知識・指導技術の向上が急務である。(各訓練の詳細については後述)

## ○職員の養成研修

内部研修においては、倫理綱領、虐待防止などの基本的理念の研修を強化し実施した。年間カリキュラムに沿った職業訓練(就労支援)担当職員の養成研修は、一貫して参加者を事前に定め、講義、ミーティングだけでなく、実技を学ぶ機会を設けて内容を充実していきたい。

能力開発訓練・職業リハビリテーション関係においては外部研修へも積極的に取り組めた。

## ○経営面の運営管理と安定(訓練果実)

麺製造科においては、生産数は目標値を上回る生産ができた。また、空調設備の入れ替えを行うことで、徹底した温度管理のもとに素麺作りを行うことができ、品質においても良質な製品の製造をすることができた。

園芸科においては、上半期については、菌床の仕入れ・排菌のサイクルが非正常化であり、収穫量が減少し収穫量が目標値に達することができなかった。下半期については、菌床の仕入れ・排菌のサイクルも正常化され、また、当センターの訓練時間にあつた温度管理についても検証をしながら変更していくなかで、安定したしいたけの収穫量を確保することができた。

	麺製造科	園芸科
目標生産値	10,148 ㌔	49,978 kg
実生産地	10,194 ㌔	45,452 kg
差	+46 ㌔	-4,526 kg

## ○育成会活動の活性化

各種行事の開催、各学年の訓練経過報告に加えて、能力開発センター修了後の家族支援のあり様を学ぶために、また各地域の育成会に加入することの重要性を知っていただくために、各種勉強会・研修を積極的に行った。結果、修了生 20 名中 20 名が地域の育成会に引き続き加入している。

## ○入校希望者の確保

新しい企画として、レッツ能開「オープンスクール」を実施し、113 人の参加を得られた。学校関係、施設等への積極的な働きかけ、職安、福祉事務所、相談事業所への PR 活動と共に、体験入校生に対する細かい指導・評価に心がけ「体験入校生のしおり」を作成した。結果、第 25 期生の訓練生募集には 27 名の応募があり、選考委員会を 2 回開催し訓練生 20 名を決定することができた。

応募者数		
一次募集	24 名	18 名
二次募集	3 名	2 名
計	27 名	20 名

## 平成 22 年度 事業報告

事業項目	実施項及びその概要	実施時期
1. 理事会、評議員会	(1)理事会 2回開催 (2)評議員会 2回開催	5月 3月 5月 3月
2. 監査	(1)役員監査 1回開催 (2)長崎県局員監査 (3)長崎県委員監査 (4)認定訓練監査 1回開催 (5)障害者能力開発助成金実地調査 1回開催	5月 3月 1月
3. 能力開発訓練事業	<p><b>①特別委託訓練(2学年)</b> 普通職業訓練 普通課程(1年間) (長崎県立長崎高等技術専門校の委託訓練)</p> <p><b>②認定訓練(1学年)</b> 普通職業訓練 短期課程(1年間)</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
	<p><b>(1)職業訓練全体</b> (職業基礎訓練、職業学習、個別指導他)</p> <p style="text-align: center;"><u>平成 23 年度のテーマを「たくましい体と精神力の育成。常識ある人材の育成」とし、自然を活用し強い精神力と体力を養う。基本的職業習慣の確立、特に礼儀・マナーの指導を強化すると共に、職業意欲の向上を目指した。</u></p> <p><b>【今後の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障がい・精神障がいの訓練生へ対しての職業訓練の在り方の検討</li> <li>・基礎体力の向上訓練と挨拶訓練の強化</li> </ul> <p><b>(2)麺製造科</b> (1学年訓練生 10名 2学年訓練生 10名)</p> <p>労働習慣確立・職業意識向上を目指し、一般企業により近い環境下で緊張感を持って職業訓練を実施した。</p> <p>1年生から素麺工場への見学、職場実習を取り入れることで、体感を通して職業意識の向上が図れた。</p> <p><b>【事業面】</b></p> <p style="text-align: center;"><u>年間素麺総生産量は 10,194 ケース(9 kg箱)であり、目標値 10,148 ケースを上回る。</u></p> <p>空調設備の入替えを行った。徹底した温度管理により良質な製品を製造することができた。</p> <p>空調入替工事により、製造日数は少なかったが歩留まわりが 100%を上回り、生産数は目標を達成することができる。</p> <p><b>(3)園芸科</b> (1学年訓練生 10名 2学年訓練生 10名)</p> <p>しいたけの菌床栽培を中心に職業能力開発訓練を実施した。訓練効果を検証し訓練プログラムも概ね確立することができた。</p> <p>全員が同じ作業をおこなうため、個々人の能力に応じ、個</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>

<p>③認定訓練（在職者） 普通職業訓練 短期課程（16時間）</p>	<p>別に指導計画を作成し、訓練プログラムの充実と強化が必要となった。</p> <p><b>【事業面】</b> <u>年間椎茸収穫量は 45,452 kg であり、目標値 49,978 kg を下回る。</u> 上半期は菌床の仕入れや排菌について、正常化できておらず収穫量の減少につながった。 下半期は、空調の温度管理を変更していく中で、安定したしいたけの収穫量を確保できた。</p> <p><b>(1) 麵製造科</b> 6名</p> <p><b>(2) 園芸科</b> 6名</p> <p><u>在職労働者のスキルアップ、職業学習（再確認）</u>という位置づけで、麵製造科、園芸科で実施する。 初心に帰り、職業について改めて考えるよい機会になった。</p>	<p>12月</p> <p>12月</p>
<p>④生活訓練</p>	<p><b>(1) 寄宿舎(上伊古西・東、西郷北・南)</b></p> <p>2 学年生 20 名は、瑞穂町内の一戸建借家 4 棟にて生活訓練を実施した。地域生活の中で自立心を高め、社会適応能力の向上を図った。 2 年生は週番生徒として 1 年生を指導し、また有償サポーターとして地域で生活している修了生を生活支援・相談者として 2 年生の生活訓練に取り入れることにより、先輩・後輩、仲間同士で支えあう指導體制の強化を行った。また、パトローリングシステムを徹底し、リーダーの経験から人間性の養成にも取り組んだ。</p> <p><b>【今後の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練の中に「性教育」「反社会的行動」等の学習が必要</li> <li>・発達障がい・精神障がいをもっている訓練生への「心に寄り添う支援・指導」の強化</li> <li>・2 年間の担任制とし、訓練生や保護者とのレポート形成の強化を図る</li> </ul>	<p>通年</p>
<p>⑤進路指導 (第 23 期生)</p>	<p><b>(1) 職業進路</b></p> <p><u>2 年生 20 名中 19 名が就職。(1 名は社会福祉法人南高愛隣会の福祉サービス・医療サービスを利用)</u> 一般就労 12 名(60%) 就労継続支援 A 型事業所 7 名(35%)</p>	<p>通年</p>

	<p>小売業・飲食業 3名(15%)      食品製造業 9名(45%)  サービス業 4名(20%)      農業 3名(15%)</p> <p>労働条件面で勤務時間の短縮化が見られ、所得保障の面で苦慮があった。</p> <p><b>(2)生活進路</b></p> <p>自 宅                    4名      グループホーム・ケアホーム 4名  宿泊型自立訓練 11名      短期入所事業所      1名</p> <p><b>【今後の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験実習を1年生から取り入れ、職業意識の向上を図るとともに、就職に対してのイメージをもたせたうえで2年生の進路指導に取り組む。</li> <li>・体験実習の課題をフィードバックし、課題克服のための個別訓練を徹底する。</li> <li>・就職することの困難さの理解、就労意欲等を高める工夫が必要である。</li> <li>・地域サービスセンターや就業・生活支援センターとの連携の強化。</li> <li>・発達障がいや精神障がいを伴う訓練生への進路指導の在り方を検討する。</li> </ul>	<p>通年</p>
<p>4. 調査研究事業</p>	<p><b>(1) 能力開発訓練研究委員会開催（1回）</b></p> <p>&lt;構成メンバー&gt;</p> <p>長崎県産業人材課、長崎県障害福祉課、長崎県特別支援教育室、諫早公共職業安定所、長崎高等技術専門学校、長崎県雇用支援協会、長崎障害者職業センター、長崎障害者就業・生活支援センター、長崎労働局職業対策課、雲仙市市民福祉部、社会福祉法人南高愛隣会</p> <p>&lt;主な議題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度の職業訓練・生活訓練の反省及び課題点</li> <li>・第23期生の進路指導・職場実習の経過状況報告及び課題点</li> <li>・第21回修了生実態調査の結果報告及び課題点</li> <li>・平成23年度入校性(第25期生)の入校生募集の状況</li> <li>・知的障がい者の能力開発訓練・職場開拓・入校生募集等に関する意見交換</li> </ul> <p><b>(2)第21回修了生の実態調査の実施(修了生436名対象)</b></p> <p>修了生を定期的に追跡調査し職場定着率、離職の実態等の問題点を明らかにし、当センターの能力開発訓練プログラムの改善はもとより、広く障がい者の雇用促進・職場定着につなげるために実施した。</p> <p>平成22年度は、調査結果のみならず、当センターの訓練内容・カリキュラムについてもまとめて掲載することができ、訓練内容と実態調査を関連付けて報告することが出来た。</p>	<p>3月</p> <p>12月</p>

	<p><b>(3)実践研究への協力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎県安心こども基金事業「平成 22 年度 要支援児童支援プログラム開発事業」 実践研究機関として協力 (訓練生 1 名がモデル事例となる)</li> <li>・障がいの多様化に応じたキャリア形成支援のあり方に関する研究「就労移行・能力開発支援専門部会」 (独)高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター研究 実践研究機関として準備を進めた(トータルパッケージを実施し、職業能力判定に着手していく。) (企業アンケート調査に協力)</li> </ul>	通年
5. 研修啓発	<p><b>(1)職員研修 (外部の研修会、セミナーに参加)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人南高愛隣会 福祉のトップセミナー</li> <li>・全国就業支援ネットワーク 定例研究・研修会</li> <li>・相談支援従事者初任者研修</li> <li>・長崎障害者職業センター 就業支援基礎研修</li> <li>・長崎障害者職業センター (就労支援) 実践研修会</li> <li>・職業リハビリテーション研究発表会</li> <li>・地域職業リハビリテーション推進フォーラム</li> <li>・障害者就労支援セミナー</li> <li>・長崎県サービス管理責任者研修</li> <li>・長崎県就労推進フォーラム</li> <li>・地域育成会勉強会</li> <li>・発達障がい者支援センターによる研修</li> <li>・新任職員研修 (6 か月間) 他</li> </ul> <p><b>(2)情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新</li> <li>・機関紙「ひとり立ち」発行 (1 回)</li> <li>・レッツ能開 (オープンスクール) の開催</li> </ul>	通年 11 月 9 月
6. 社会定着推進事業	<p><b>(1)各地域サービスセンターや各就業・生活支援センターとの連携</b></p> <p>6 月～7 月に各就業・生活支援センター登録を行い、修了後ではなく事前に訓練生を知ってもらうことによりスムーズな支援の移行ができるようになったが、まだまだ情報交換など不十分なところがあった。今後は各地域サービスセンターや各就業・生活支援センターと定期的な情報交換会を開催し更なる連携の強化を図りたい。</p>	通年

	<p><b>(2)同窓会活動の活性化</b></p> <p>修了生（保護者を含めて）の同窓会活動を積極的に支援しグループ単位の同窓会を開催する計画であったが、限られた期しか実施できなかつた。今後は合同同窓会などを企画し、仲間同士や先輩後輩の関係性で支えあう機会を作りたい。</p> <p><b>(3)関係機関との連携</b></p> <p>ハローワークを中心に、労働・教育・福祉の関係機関との連携を密に行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定職業能力開発校担当者会議</li> <li>・長崎県アビリンピック出場（訓練生）</li> <li>・障害者雇用連絡会議（諫早職安）</li> <li>・長崎障害者就業・生活支援センター運営協議会</li> <li>・長崎高等技術専門校「技能のひろば」出演（訓練生）</li> <li>・長崎県職業リハビリテーション推進フォーラム</li> <li>・県南、県央就労支援ネットワーク協議会</li> <li>・雲仙市自立支援協議会 就労支援部会</li> </ul>	<p>通年</p> <p>随時</p>														
<p>7. 育成会活動</p>	<p><b>(1)研修会や見学会を実施し内容を広げる</b></p> <p>&lt;主な活動内容&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>授業参観</td> <td>1回開催(1学年)(12月)</td> </tr> <tr> <td>研修・見学</td> <td>7回開催 (理事長講演、サポートネットワークながさき講話、相談支援事業所講話、グループホーム・ケアホーム群講話、就業・生活支援センター講演、修了生保護者との意見交換会、福祉のトップセミナー)</td> </tr> <tr> <td>行事参加</td> <td>3回開催 (ゆうあいスポーツ大会、ハートピア2010、みんなの技能のひろば)</td> </tr> <tr> <td>全体会</td> <td>2回開催(4月・3月)</td> </tr> <tr> <td>学年部会</td> <td>6回開催(4月・6月・7月・9月・2月・3月)</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション</td> <td>1回開催(6月 親子レクリエーション)</td> </tr> <tr> <td>懇談会(懇親会)</td> <td>1回開催(6月)</td> </tr> </table>	授業参観	1回開催(1学年)(12月)	研修・見学	7回開催 (理事長講演、サポートネットワークながさき講話、相談支援事業所講話、グループホーム・ケアホーム群講話、就業・生活支援センター講演、修了生保護者との意見交換会、福祉のトップセミナー)	行事参加	3回開催 (ゆうあいスポーツ大会、ハートピア2010、みんなの技能のひろば)	全体会	2回開催(4月・3月)	学年部会	6回開催(4月・6月・7月・9月・2月・3月)	レクリエーション	1回開催(6月 親子レクリエーション)	懇談会(懇親会)	1回開催(6月)	<p>通年</p>
授業参観	1回開催(1学年)(12月)															
研修・見学	7回開催 (理事長講演、サポートネットワークながさき講話、相談支援事業所講話、グループホーム・ケアホーム群講話、就業・生活支援センター講演、修了生保護者との意見交換会、福祉のトップセミナー)															
行事参加	3回開催 (ゆうあいスポーツ大会、ハートピア2010、みんなの技能のひろば)															
全体会	2回開催(4月・3月)															
学年部会	6回開催(4月・6月・7月・9月・2月・3月)															
レクリエーション	1回開催(6月 親子レクリエーション)															
懇談会(懇親会)	1回開催(6月)															